



北口本宮富士浅間神社参道



北口本宮富士浅間神社

しずおか健康長寿財団 はつらつネットふじのくに令和元年10月事業「富士山五合目トレッキング(御中道・御庭・奥庭)と、山梨県立富士山世界遺産センターへの研修ツアーが10月1日(火)に行われました。

会員・スタッフ66名を乗せたバス2台は、一路富士吉田北口本宮富士浅間神社に向かいました。富士山信仰の盛んな江戸時代に富士講の皆さんが登山の出発点として参拝した浅間神社の鳥居をくぐり、今日一日の旅の安全を祈願して五合目へと向かいました。



富士山五合目広場にて



コメツガ林に囲まれて

長期天気予報では雨模様と言われていましたが、参加者の気持ちを通じ、今日は富士山も姿を見せてくれ富士スバルラインを走る車中から山頂の眺めは、私たちの心をわくわく躍らせてくれました。

10時40分に定刻通り富士山五合目の広場に到着し、ここで2kmウォーキングコースの皆さんは奥庭に直行し、5kmウォーキングコースの皆さんは4グループ(1グループ12名)に別れ、待ち受けてくれた富士山五合目自然解説員(4名)の注意事項を聞き、御中道・御庭コースへと元気に出発しました。

一行が最初に出会ったのはコメツガが群生している森林(写真右)です。



富士山五合目自然解説員による説明



森林の中を進む一行

平坦な道を10分ほど歩くと御中道・御庭コースの案内標識の前に到達し、ここで富士山五合目自然解説員から詳しくコース概要説明を受けました。

思っていた程きつはなく、快い風と森林の香りが私達一行を後押ししてくれました。



森林限界の御中道



旗型樹形

視界が開ける場所に進んできました。目の前に広がるスコリアをザクザクと踏みつけ足をしばらく止めると、右手にはカラマツ林、左手には、まじかに迫る富士山頂を仰ぎ観ることが出来ます。

厳冬時に吹き付ける西の強風によりカラマツの枝が東方へ旗のようになびき、西側の枝が全くない樹木が見受けられますが、このような樹木を旗型樹形(写真右)と言い、厳冬をたくましく生き抜いてきたカラマツの逞しさが伺えます。



山頂を左手に進む



スコリアを踏んで

山頂は一瞬にして雲に隠れたかと思うと、次の瞬間また顔を出すといった変化にとんだ姿を見せてくれ私たちの足をしばらく止めさせてくれます。



御庭から下界に目を向ける



下方に大室山

噴火で生まれたスコリアを踏みながら快適なウォーキングは続きますが皆さん本当にお元気で誰一人疲れた様子を見せていません。雲がとれ下界が良く眺められる場所に来ました。遥か彼方には富士山北西麓に位置した側火山(寄生火山)の大室山が霞んで見えます。

大室山(写真右の中央後方 標高1468m)は、青木ヶ原樹海の南側に位置し周辺には、本栖風穴、大室風穴、神座風穴が点在しています。

また大室山より少し前方に、見えるのが長尾山(標高1424m)で、864年の貞観大噴火の溶岩がせのみ(せ海)をせき止め今の精進湖・西湖を形づくったと言われています。

富士山の北西から南東にかけいくつもの側火山が存在していますが、南東(静岡県側)に位置する有名な側火山が宝永山です。

私達一行は、富士山五合目自然解説員の皆さんから富士山に関する多くの知識を学ぶことが出来ました。



[コケモモ群落](#)



[ダケカンバ群生](#)

進行左手の這カラマツ林(テーブル樹形)の中を覗いてみると小さな赤い実をつけたコケモモが群生していました。

また右手下方には、ダケカンバの若木が枯れた状態(写真右)で見えますが、富士山五合目自然解説員の棚木さんのお話では、これらの木々は枯れたのではなく、この状態で根元からまた新しい芽が生えてくるそうです。



[山頂には雲が](#)



[森林限界からの山頂眺望](#)

森林限界から山頂を眺めると足元から山頂に向かってオンタデやオノエイタドリが、たくましく地中にしっかりと根を張り厳しい富士山の気候に耐え生き抜いています。



[側火山\(寄生火山\)ポイントで休憩](#)



[奥庭からの眺望](#)

御中道・御庭コース最終ポイントである側火山(寄生火山)がルート状に窪んで見える所に休憩所の東屋があります。

この先は、昼食を摂る奥庭荘を目指し800mの下り坂が続く歩道を進むため膝に負担がかからないよう休憩をしっかりと取ります。

昼食後の奥庭から見た富士山の素晴らしい眺望(写真右側)は、今までの疲れた体を癒してくれました。この素晴らしい景色をあとにして14時10分に私たちを乗せたバスは奥庭に別れを告げ下山しました。



[山梨県立富士山世界遺産センターにて](#)

[山梨県立富士山世界遺産センター見学](#)

富士スバルラインを走り下ること45分、最終見学地である山梨県立富士山世界遺産センターに到着し、全員で記念撮影をパチリ。世界遺産を生み出した自然と人との関りや、25の構成遺産からなる世界遺産富士山の魅力について、南館内にてパネルや映像で専属解説員から詳しい説明をしていただきました。

江戸時代の富士山信仰「富士講」の人たちは、3回以上富士山頂へ登った人だけが、お中道巡りを許されたとの話を聞きましたが、私達は本日全員元気に2時間30分 完歩出来、富士山の生い立ちや森林限界で生息する動植物の逞しい姿を実際に観て多くを学ぶことが出来ました。

このように元気な仲間と楽しく、自然に触れ共に喜びを分かち合うことが出来たウォーキング&研修旅行に感謝いたします。

取材:富士・富士宮・北駿地区担当 生きがい特派員 渡邊英機